

極晩生の飼料用稲品種「タチアオバ」 を中心とした周年多収な作付体系

畜産環境部

1 背景、目的

畜産経営では飼料の安定確保を目指した自給飼料増産対策が求められており、水田を活用した飼料用稲栽培に注目が集まっています。そこで、温暖多雨な本県の気候風土に適した飼料用稲品種を選定し、年間を通じて飼料作物の多収を得る作付体系等を明らかにしました。

2 成果の内容、特徴

- 1) 乾物収量および可消化養分収量 (TDN) が従来品種「ニシアオバ」より多いことから本県に適したホールクロップ向け飼料用稲品種として「タチアオバ」を選定しました。本品種は極晩生品種で倒伏に極めて強く、台風の上陸が多い九州北部の気象条件に適しています (表 1)。
- 2) 「タチアオバ」とイタリアンライグラスまたはえん麦を組み合わせた作付体系では1年を通じて約 3 t / 10 a の高い乾物収量が得られます (図 1)。
- 3) 「タチアオバ」は、移植苗数を減らした疎植 (11.2株/m²) にしても慣行法 (18.2株/m²) と同等の収量が得られます (データ略)。

3 主要なデータなど

表1 「タチアオバ」の特性（平成20～21年）

品種	出穂 月日	収穫 月日	稈長 (cm)	穂数 (本/m ²)	乾物収量 (kg/10a)	TDN収量 (kg/10a)	耐倒伏性
タチアオバ	9/16	10/30	98	290	1,754	1,033	極強
ニシアオバ	9/5	10/11	93	310	1,474	903	中

- 注) 1. 移植日は6月19日。収穫期は黄熟期。
2. 「タチアオバ」の育成機関は九州沖縄農業研究センター筑後研究拠点。

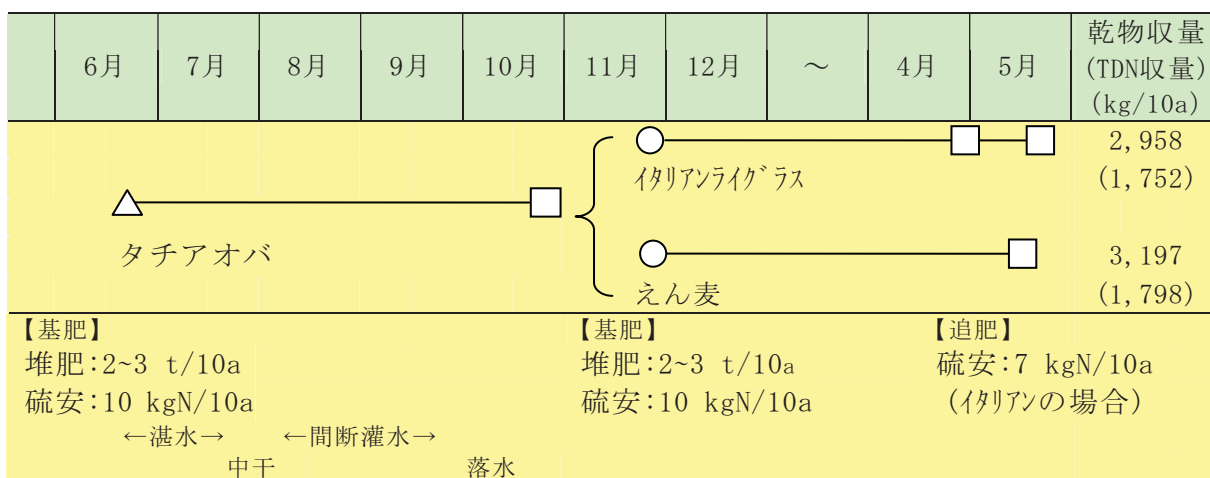


図1 「タチアオバ」を中心とした周年作付体系

- 注) 1. △: 移植、○: 播種、□: 収穫。
2. 収量は場内試験および実証ほの平均値（平成19年～21年）。



図2 飼料用稲専用品種「タチアオバ」と「ニシアオバ」の草姿